

Ⅲ 委員会活動

医学研究倫理委員会

文責／小野 剛

◎目的

玉川病院内で施行される“人を対象とした医学的研究および医療行為”を対象として、新たなエビデンスの確立を目指し、科学的・倫理的配慮に基づいて臨床試験を審議・改善・認証することを目的とする組織である。人を対象とする医学研究の倫理的原則“ヘルシンキ宣言”の“2013年10月WMAフォルタレザ総会(ブラジル)の改訂版”の要旨に沿って審議を行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：小野 剛(診療部)

診療部：坪島顕司

医療技術部：北岡 晃

看護部：高橋由美子

事務部：高橋英次、伊藤 一

外部委員：網本 和(東京都立大学)

三宅美博(東京工業大学)

◎開催日

小委員会：第2水曜日、午後5時30分

本審査：第4水曜日、午後5時30分

迅速審査は適宜行う。審査の適応基準に関しては「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 ガイダンス(令和3年4月16日改訂)」(<https://www.mhlw.go.jp/content/000769923.pdf>)を参照。

◎活動報告

審査総数：48件

内訳：10件 2020年度申請の持越し

30件 2021年度新規申請

8件 研究計画変更

審査状況：本審査11件、迅速審査31件、

審査取下げまたは対象外2件、

2022年度へ審査持ち越4件

審査結果：承認38件、条件付き承認4件

近年わが国の医学研究におけるさまざまな不正行為が明らかになり、厚生労働省および文部科学省は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を策定した。研究者等・研究機関・倫理審査委員会をはじめとする全ての関係者は、高い倫理観を保持し、人を対象とする医学系研究が社会の理解および信頼を得て社会的に有益なものとなるよう、適切に対応することが求められている。倫理指針の実運用において、文部科学省・厚生労働省・経済産業省は「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」を示し、附則の規定に関する解釈や具体的な手続の留意点等を説明しており、さまざまな例示を行っている。倫理審査を提出の際は、上記において指定の“eラーニングの受講”を求めている。ICR臨床研究入門(https://www.icrweb.jp/icr_index.php)の“臨床試験の基礎知識講座”で基礎知識を習得し、研究者は受講修了証の取得を必須としている。

◎今後の目標

増加する倫理申請案件に対応し円滑でより厳格な審査を行うため、本審査前に院内委員による事前委員会で申請案件の審査方法(迅速審査、本審査)の判定を行っている。

医療安全管理委員会

文責／大池由貴子

◎目的

医療事故の発生・再発を予防し、「医療の質」の確保と「安全な医療」「患者安全」を実施するための医療安全全体の充実を図る。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：相川 丞(診療部)

診療部：和田義明、岩本正照、大石陽子

医療安全管理室：大池由貴子

(ジェネラルリスクマネージャー)

感染管理室：横溝直子(感染管理特定認定看護師)

看護部：高橋由美子、栗原真希、平野未沙、中村香織

医療技術部：北岡 晃、井上博満、菅野将敏、

千葉哲也、篠原 真、猪狩亜希子

事務部：佐藤佳子

◎開催日

第3月曜日、午後4時

◎活動状況

・医療安全ラウンド(月1回/月曜日)

・医療安全カンファレンス(週1回/金曜日)

・医療安全セミナー2回 (7月/11月)

7月：「COVID-19第4波までの状況」 感染対策

「危険薬について」 薬剤科

参加率 89.6%

11月：「診療用放射線の知識」 放射線科

「玉川病院感染対策ルールのおさらい」 感染対策
 「転倒転落予防対策」 医療安全
 参加率 90.6%
 新型コロナウイルス感染症対策から、「密閉」「密集」「密接」となる集合研修を中止し、
 e-ラーニング研修での実施。

- ・医療安全対策地域連携活動
 テーマ：「医療安全管理体制」「転倒転落予防」「栄養科」
 I・I 連携：東京共済病院(2021年9月29日)
 I・II 連携：世田谷記念病院(2021年12月22日)
- ・医療安全ニュース発信：2回
- ・情報収集と分析
 レポート報告：1,264件
 概要別発生件数：薬剤(36.2%)転倒転落(23.6%)
 ドレーン・チューブ(13.2%)
 処置・検査(9%)
 治療・合併症(2.37%)
 手術関連(2.21%)輸血(1.1%)
 療養上の世話(4.0%)
 医療機器関連(2.21%)

事故レベル発生率：Lv0～3a(インシデント)
 97.8%(前年度98.3%)
 Lv3b～5(アクシデント)
 22.2%(前年度1.6%)
 入院患者転倒転落発生率：2.744%(前年度2.85%)
 職種別報告率：医師(4.35%)看護師・助産師(84%)
 介護福祉士・看護助手(2.1%)
 クラーク(0.47%)薬剤師(3.48%)
 栄養給食科(0.5%)放射線技師(1.5%)
 臨床検査技師(1.4%)
 リハビリテーション(1%)
 臨床工学技士(0.39%)事務員(0.46%)

- ・事例検討会3件
- ・医療安全管理室介入事案3件
- ・医療安全マニュアル改定、電子カルテエントランス「医療安全情報」へ掲載
- ・医療安全ハンドブック第2版(2022年度版)改定

◎今後の目標

- ・安全に対する部署医療安全推進者の育成強化
- ・職種を超えての横断的教育研修の企画と実施
- ・事故発生の原因究明と分析に基づく検討会開催症例を増やす
- ・医療安全対策地域連携による質改善

感染対策委員会

文責／横溝直子

◎目的

医療関連感染予防対策を適正かつ円滑に遂行するための検討を行い、職員に周知徹底を図り、医療関連感染を減少させ、職員の安全を守る。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：相川 丞(診療部)
 診療部：和田義明、齋藤和幸、岩淵千雅子、三浦孝夫
 感染管理室：横溝直子(感染管理特定認定看護師)
 医療安全管理室：大池由貴子
 (ジェネラルリスクマネージャー)
 看護部：高橋由美子、谷川まゆみ、田中 峻、
 藤井沙織、各看護単位1～2名
 医療技術部：北岡 晃、田川誠二、古賀一将、
 飛知和澄子、酒匂啓輔、松村彩子、
 原 慶、篠原 真
 事務部：佐々木栄三、渡邊侑李
 ICT：相川 丞、齋藤和幸、横溝直子(ICT専従)、
 長谷川寿美子、高野綾香、田川誠二(AST専従)、
 野上由佳、古賀一将、飛知和澄子、柴崎彩歌、
 池田知郷

◎開催日

第2火曜日、午後4時(ICT：毎週水曜日、午後4時)

◎活動報告

- ・院内環境ラウンド(月1回)、耐性菌サーベイランス・
 抗菌薬適正使用の監視(週1回)
- ・針刺し・切創 件数9件(前年比-21件)
 血液・体液曝露 3件(前年比+3件)
- ・血液培養総検査数1,566件(-12件)
 2set率89.4%(+0.6) 陽性率16.6%(+2.8)
 汚染率2.6%(±0) 血液培養採取セット数(1,000患者
 日数あたり)16.1(-0.3)
- ・感染防止対策地域連携カンファレンス(青葉病院 年4
 回)
- ・感染防止対策地域連携相互評価(杏雲堂病院 年1回)
- ・手指衛生指数(1日1入院患者あたりの手指衛生回数)
 5.9回(-0.6)
- ・COVID-19対応
 年間入院応需数：429名(+183)(うち保健所178名・都
 庁コロナ調整本部95名)
 入院患者の院内発症11名 アウトブレイク0件

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

◎今後の目標

- ・アウトブレイク0件
- ・ルールを逸脱したために起こった針刺し・切創、皮膚・粘膜曝露3件/年以下
- ・手指衛生指数8回以上 手指衛生の質評価の開始
- ・血液培養2set率 90%以上

- ・CLABSI、CAUTIサーベイランスの再開
- ・COVID-19感染症のアウトブレイク(5名以上の感染)を起こさない
- ・職員から患者への感染伝播が疑われる事例が発生しない

メンタルケア・ハラスメント委員会

文責/今村吉彦

◎目的

定期的にストレスチェックを行い、職員のメンタルケア・ハラスメントの有無をチェックし、高い健康リスク者へのケアの取り組みや職場のハラスメントに対応する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：今村吉彦(診療部)

看護部：小川マツ子、杉山 恵

医療安全管理室：大池由貴子

(ジェネラルリスクマネージャー)

医療技術部：元良俊太、澤田祐子

診療支援部：水高優子

事務部：佐々木栄三

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1.メンタルケア

- ・2021年度も前年に引き続きコロナの影響から職場のストレスが高じ、メンタルケアを希望されるケースが多かったため、保坂 隆医師(精神神経科)に面談を継続していただいた。
- ・ストレスチェック制度(SOMPOリスクアマネジメント社 LLax seed)を活用し、職場のメンタルヘルス対策を行うため、ストレスチェックを行った。チェック項目は全105項目で、仕事の量的負担や質的負担の評価に加えて、情緒的(心理的)負担や報酬面の評価、仕事の満足度を評価した。

実施日：2021年9月10日～10月9日

調査対象者716名、

受験者数(実施率%) 623名(87.0)、47組織

組織診断(集団分析)結果：

総合健康リスク値 93

(全国平均100 高いほど高リスク集団)

仕事のパフォーマンス総合評価 93.0

(全国平均94 低いほど労働生産性低下)

いきいき職場環境総合評価 10.3

(全国平均11.5 低いほど職場環境が悪い)

各部署の管理職(部長、副部長)を対象にストレスチェックの結果の見方をSOMPOヘルスサポートの担当者から解説していただいた。高リスクの個人に対しては専門の臨床心理士や医師の面談・受診を勧めている。

2.ハラスメント

- ・「職員の声」ポストから：投書：12件、面談：6件、ヒアリング：6部署(延べ33名)

相談は職場の人間関係に関する内容が多く、ハラスメントに関してはほとんどが職場上司によるパワハラであった。まずリスクマネジメント担当委員が面談し、介入が必要と判断した場合は本人の同意を得て対象者に対しヒアリングを行い、その後委員会にて状況の確認や対策を検討している。さらに対応が困難な事例に関して院長に進言し解決をはかっている。

- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティングの担当者(木村氏)によるハラスメント防止研修を管理職向けと一般職向けに講演していただき録画した。新年度に全職員に向けてe-ラーニング方式にて配信する予定。

◎今後の目標

職場のハラスメントが高ストレスや作業能率の低下につながり、さらに新たなハラスメントを生み出す土壌となるので、風通しのよい職場環境を構築すべく、メンタルケア対策やハラスメント研修を強化し職員個々の意識を高めていきたい。

総合的質管理(TQM)委員会

文責/今村吉彦

◎目的

2019年にホスピタリティー委員会と教育研修委員会が統合して発足した委員会。患者・職員満足度調査およびTQM(Total Quality Management)活動を継続し、その内容を分析し病院の質の保持・向上へつなげる。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：今村吉彦(診療部)

診療部：奥田直樹

看護部：小川マツ子、澁谷喜代美、浅川美保、大竹順子、鈴木友香

医療技術部：井上博満、松村彩子、古賀一将、

小倉敬史、小林悟史、梅津美奈子

診療支援部：平田美乃里、久米美由紀、橋本史子

事務部：藤井 隆、船橋達也、松坂加寿美、大西真美子

◎開催日

第4火曜日、午後4時

◎活動報告

- ・2021年4月1日新入職者オリエンテーションを行った。院長からの玉川病院のビジョンについてから始まり、個人情報保護、感染対策、医療安全などについて担当者から説明された。
- ・日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審に向けて自己評価表の内容確認、受審に必要な書類の確認などを行い、2021年6月8・9日に受審した。当院の活動について概ね評価していただき認定された。
- ・TQM活動：コロナ禍のため1年延期となっていた第12回TQM発表会をYouTube配信にて2021年8月10～24日まで行った。昨年より準備を継続していた3チーム+外来と3東病棟のコロナ対応チームの計5チームが参加し発表され延べ1,165件の視聴がえられた。
- ・10月より委員会をTQM、皆様の声、職員・患者満足度調査を担当する4つのサブグループに分け、各活動

の活性化・充実化を図った。

- ・職員満足度調査：ESナビゲーターⅡ(日本経営(株))を使用し2022年1月に施行した。回答率77.8%であった。当院は活性型組織であるが、配分上の公平性や教育体制の充実度が低いという結果であった。
- ・患者満足度調査(外来患者)：従来の紙ベースによるアンケート調査に戻し2022年2月14～19日まで施行した。3,070名の患者に配布し1,565名(51%)から回答が得られた。総合評価はとても満足が38.9%であり、ほぼ満足を加えると70.4%と比較的良好であった。結果の一部をホームページ上に掲載予定である。

(入院患者)：QRコードを使用した調査を継続したが、退院患者数5,930件(死亡症例を含む)に対し、回答件数381件、回答率6.4%と極めて低かった。総合評価はとても満足が74.3%であり、やや満足が16.3%で比較的良好であった。今後は、外来での調査同様、紙ベースによるアンケート調査を行う方針とした。

- ・患者からの投書：年間投書総数は592件(感謝の声：延べ383件、指摘の声：延べ353件)であった。月毎に集計し、ご指摘の声に対しては担当部署にフィードバックし改善点を検討し可能な限り対応している。

◎今後の目標

- ・病院機能評価認定病院の機能を維持する。
- ・TQM活動は、院内における日頃の疑問点や改善点などをテーマとし、さまざまな職種で具体的な対策を考え病院の改善や進歩につなげていく活動である。職員のモチベーションを高め、活発化させていきたい。
- ・患者および職員満足度調査の結果を正しく評価しその分析を進め、フィードバックしていく。
- ・患者からの投書に対し真摯に対応していく。

特定行為研修管理委員会

文責/大石陽子

◎目的

特定行為看護師育成、看護師特定行為研修に関する研修管理、指導体制の整備、研修修了後の特定行為看護師に対する活動のサポートを行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：大石陽子(診療部)

診療部：和田義明、相川 丞、栗原正利、今村吉彦、石井一之、森田瑞生、岩渕千雅子

看護部：高橋由美子、澁谷喜代美、木幡典子、柳川花菜子

医療技術部：北岡 晃

事務部：高橋英次、佐々木栄三、高木 真

外部委員：長嶋久美子(世田谷区医師会立看護専修学校)

◎開催日

年数回

◎活動報告

- ・2022年3月現在、8名の特定看護師が診療の現場で活動し、特定行為研修の教育およびサポートを行っている。
- ・今年度(第三期)は7名に対し、下記の特定行為について研修を実施した(研修期間：2021年6月～2022年5月)。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

「末梢挿入中心静脈カテーテル(peripherally inserted central catheter : PICC)」

「褥瘡または慢性創傷の治療における血液のない壊死組織の除去」

「創傷に対する陰圧閉鎖療法」

「創部ドレーン抜去」

「透析管理関連」

「持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整」

「脱水症状に対する輸液による補正」

・ 共通科目と区分科目のスケジュール作成、講師の依頼。

・ 演習や実習のサポート。

・ 令和3年度 厚生労働省 看護師の特定行為に係る指導者育成等事業「看護師の特定行為研修に係る実態調査・分析等事業」の検討委員として活動した。

◎今後の目標

・ 2023年度からパッケージコースおよび新規区分の増設を検討する。

・ 診療現場における特定行為看護師の活躍の場を拡大する。

・ 特定行為看護師研修修了者に対する卒後教育の充実。

臨床研修管理委員会

文責／相川 丞

◎目的

初期研修医の研修目標であるプライマリケアの習得および医師としての人格の育成を支えるために当委員会がある。研修プログラムの作成、研修プログラム相互間の調整、研修医の管理および研修医の採用・中断・修了の際の評価等々、臨床研修実施に関してその統括管理を行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：相川 丞

プログラム責任者：齋藤和幸

診療部：和田義明、大石陽子、石井一之、朝木千恵

看護部：澁谷喜代美

事務部：佐々木栄三、高橋英次、竹之内悠里

協力型臨床研修病院の研修実施責任者：

並木 温(東邦大学医学部卒後生涯教育センター長)

合計11名(敬称略 順不同)

◎開催日

定期開催：年5回

◎活動報告

2021年4月1日より7名(基幹型2名、東京医科歯科大学協力型5名)が入職し、2020年4月入職の基幹型2名と合わせ、計9名が1年間の研修を受けた。2021年度、各研修医のローテーションスケジュール(表1)。

必修科目：内科(28週)、救急(8週)、麻酔(8週)、外科(9週)、小児科(4週)、産婦人科(4週)、精神科(4週)、地域(4週)の必修科目のうち記載上位4科目を1年目に研修した。また外来並行研修として、内科ローテーション中に総合内科外来を指導医とともに週2日研修した。

小児科は成育医療研究センター、精神科は都立松沢病院にて研修を行い、地域研修は、玉川クリニック、日産厚生会診療所、訪問診療のふくろうクリニックをお願いした。

指導医は7年以上の臨床経験を有する当院常勤医が務める。

研修評価はEPOC2(Evaluation system of Postgraduate Clinical training)による臨床研修評価システムにて実施する。基本的臨床能力評価試験(JAMIP)によりプライマリケアや総合診療の知識全般を評価した。数嶋さよ研修医は全国で100位以内に入り研修委員会で表彰した。

2021年5月～2022年1月で28回、指導医などによる研修医セミナーを開催(表2)。

2021年4月22日、27日、6月22日、29日に初期研修医(2022年度)Web病院説明会を実施。

2021年7月14日、7月16日、7月21日に初期研修医(2022年度)見学会を実施。

2021年8月14日と8月21日に初期研修医(2022年度)の入職採用試験を実施。

2022年2月21日、初期研修院内研究発表会(YIA)を開催。

2022年3月28日、早朝医局会で修了証書授与式を開催。

◎2021年度初期研修医の総評

1. 研修状況について(表1)

入院診療は、新型コロナウイルスの感染状況により救急搬送受け入れ数の減少や一時的な病棟閉鎖による大きな影響を受けたが、初期研修医はスケジュール通りに研修を実施でき、経験目標、行動目標などすべて問題なく習得できた。

2. 出勤率、当直・日直について

すべての研修医において、欠勤や大きな病気等なく研修が行われた。出退勤打刻もほぼ問題なく行われていた。当直・日直の回数は、平均3回/月。医師の働き方改革の先駆として初期研修医は土曜、日曜の週休2日制を採用、さらに連続勤務時間制限から当直明けの午後半休となっている。

3. 研修医セミナーについて(表2)

年間28回開催し、毎年増加している。研修医1年目と2年目の対象セミナーを分ける案、2年周期でセミナーのプログラムを作成する案が出ている。

4. 学会・研究会発表実績について(表3)

各自1回は学会発表を行った。総会、地方会、研究会で発表した研究報告、症例報告をさらに検討、発展させた形でYIA(初期研修院内研究発表会)にて発表し、最優秀演題に対しては、研修医と指導医を表彰した。

5. 修了判定について

2022年3月22日の委員会にて上記1~4およびEPOC基本的臨床能力評価試験(JAMIP)結果を評価し研修医2年目5名(協力型も含む)は全員研修を修了可とした。

6. 進路は(表4)のごとくである。

(注1)基本的臨床能力評価試験(JAMIP)とは、日本の初期研修医がどの程度プライマリケアの知識を身につけているかを把握する試みで、日本医療教育プログラム推進機構が実施。

◎今後の目標

1. 学術集会や研究会での発表促進。抄読会や症例検討会での発表促進。Web環境の整備。
2. EPOC2の360度評価をもとに、チーム医療の大切さとコメディカルとの協力体制を確立する。
3. 研修医セミナーのテーマ拡充をはかる。医療安全、臨床倫理、感染対策など病院横断的な項目を追加する。1年目研修医と2年目研修医対象のテーマをそれぞれ検討。
4. 研修医の技術習得レベルを定期的にチェックする。
5. メンター制度を導入し、各研修医を知識面、技術面、精神面からサポートしてレベルアップ、脱落防止を図る。

(表1)2021年度 研修医のローテーションスケジュール

氏名		研修ローテーション科													
2年次	開田大輝	地域研修	救急科	産婦人科	成育・小児科	脳神経内科	呼吸器内科	精神科(松沢)	脳神経内科	膠原病(大橋)	消化器内科	糖尿病・代謝内科	腎臓内科	放射線(大橋)	皮膚科
	敷嶋さよ	救急科	糖尿病・代謝内科	小児科(成育)	膠原病リウマチ科	地域研修	精神科(松沢)	皮膚科	糖尿病(大橋)	放射線(大橋)	呼吸器内科	消化器内科	脳神経内科	産婦人科	腎臓内科
	竹中彩乃	産婦人科	消化器外科	脳神経内科	麻酔科	皮膚科	地域研修	救急科	循環器内科	小児科(医科歯科)	精神科(医科歯科)	麻酔科	腎臓内科	糖尿病・代謝内科	
	上道知明	整形外科	麻酔科	地域研修	循環器内科	産婦人科	リハビリテーション科	救急科	膠原病リウマチ科	小児科(医科歯科)	精神科(医科歯科)	整形外科	脳神経内科		
	本間理紗子	皮膚科	腎臓内科	地域研修	糖尿病・代謝内科	消化器内科	リハビリテーション科	精神科(医科歯科)	小児科(医科歯科)	産婦人科	リハビリテーション科	救急科	脳神経内科	消化器内科	
1年次	清水陸久	循環器内科	脳神経内科	膠原病リウマチ科	呼吸器内科	消化器内科	腎臓内科	糖尿病・代謝内科	呼吸器外科	救急科	消化器外科	麻酔科			
	一般外来研修														
	深谷健太	脳神経内科	膠原病リウマチ科	呼吸器内科	消化器内科	腎臓内科	糖尿病・代謝内科	循環器内科	麻酔科	消化器外科	呼吸器外科	救急科			
	一般外来研修														
	石田凌大	消化器外科	呼吸器外科	救急科	麻酔科	消化器内科	腎臓内科	糖尿病・代謝内科	脳神経内科	膠原病リウマチ科	循環器内科	呼吸器内科			
1年次	藤本可子	麻酔科	呼吸器外科	消化器外科	救急科	呼吸器内科	脳神経内科	膠原病リウマチ科	腎臓内科	糖尿病・代謝内科	消化器内科	循環器内科			
	一般外来研修														

(表2)2021年度 研修医セミナー

日程	テーマ	担当講師
1 5月12日(水) 17:00	入院患者の必要書類記載方法	診療情報管理室 橋本
2 5月19日(水) 17:00	心電図で診断できる循環器疾患	循環器内科 相川
3 5月26日(水) 17:00	胸部レントゲンの読み方	呼吸器内科 長
4 6月2日(水) 17:00	研修医が知っておきたい医薬品安全使用の基礎知識	薬剤科 北岡
5 6月16日(水) 17:00	マックグラスを使用した挿管トレーニング	麻酔科 朝木
6 6月24日(木) 17:00	縫合セミナー(エチコン協賛)	消化器外科 大司
7 6月30日(水) 17:00	アドバンスケアプランニング(ACP)について	緩和ケア認定看護師 中西
8 7月7日(水) 17:00	輸液栄養領域勉強会(水、電解質輸液1)	大塚製薬
9 7月28日(水) 17:00	PICC挿入トレーニング	循環器内科 小野
10 8月11日(水) 17:00	研修医に知ってほしい皮膚病変	皮膚科 岩渕
11 8月18日(水) 17:00	急性腹症	消化器外科 藤井
12 8月25日(水) 17:00	大腿骨骨折	整形外科 戸原
13 9月1日(水) 17:00	消化器内科で使用される薬剤	消化器内科 永嶋
14 9月8日(水) 17:00	神経筋疾患の診療	脳神経内科 小林(正)
15 9月15日(水) 17:00	介護保険制度について	医療ソーシャルワーカー 酒井

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

	日程	テーマ	担当講師
16	10月6日(水) 17:00	胸腔ドレーンの挿入と抜去	呼吸器外科 坪島
17	10月13日(水) 17:00	輸液栄養領域勉強会(水、電解質輸液2)	大塚製薬
18	10月20日(水) 17:00	輸液栄養領域勉強会(末梢静脈栄養)	大塚製薬
19	10月27日(水) 17:00	気胸の診断と治療	呼吸器外科 栗原
20	11月10日(水) 17:00	輸液栄養領域勉強会(中心静脈栄養+脂肪乳剤)	大塚製薬
21	11月17日(水) 17:00	輸液栄養領域勉強会(経腸栄養法)	大塚製薬
22	11月24日(水) 17:00	漢方薬の基本的注意と頓用処方	ツムラ
23	12月2日(木) 17:00	脳出血と画像診断	脳神経外科 原科
24	12月8日(水) 17:00	癌外科治療の歴史	消化器外科 安野
25	12月16日(木) 17:00	タイトル未定	糖尿病代謝内科 竹内(崇)
26	12月23日(木) 17:00	排尿症状へのアプローチ	泌尿器科 田中
27	1月13日(木) 17:00	脳出血と画像診断	脳神経外科 原科
28	1月18日(火) 17:00	CDKについて	腎臓内科 高橋

(表3)2021年度 学会・研究会発表実績

演者	演題名	学会・研究会	日程
開田大輝	超高齢血液透析患者の重症僧帽弁閉鎖不全症にMitraClipによる治療が奏効した1例	第675回日本内科学会関東地方会	2.12
敷嶋さよ	膝関節痛で発覚したテレワークによる日照不足が原因となったと考えられるビタミンD欠乏症の1例	日本内科学会第675回関東地方会	2.12
竹中彩乃	下肢近位部優位の単麻痺を呈した半乱円中心梗塞の1例	第675回内科学会関東地方会	2.12
上道知明	大腿骨転子下骨折術後ネイル折損に対して人工骨頭置換術と大転子骨接合術を併用した一例	第48回日本股関節学会学術集会	10.22
	全人工骨頭関節術後に発熱と四肢の疼痛が出現し、感染との鑑別を要した一例	第52回日本人工関節学会	2.25-26 (オンデマンド配信)
本間理紗子	頭部脱毛斑を初発症状とした尋常性天疱瘡	第85回日本皮膚科学会東京支部総会	11.13
清水陸久	原発性自然気胸に対する単孔式手術の3ポート法との比較	第1回気胸・のう胞性肺疾患Webフォーラム	2.19
深谷健太	アルコール多飲歴と非可逆性脳梁膨大部病変を伴ったメトロニダゾール脳症の一例	第239回日本神経学会関東甲信越地方会	12.4
石田凌大	術後も繰り返す原発性自然気胸に再手術を行うことは妥当なのか? -再手術の治療成績からの検討	第25回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会	9.17
藤本可子	シェーグレン症候群に合併したリンパ球性間質性肺炎(LIP)の一例	日本内科学会第676回関東地方会	3.19

(表4)2021年度研修医の進路

区分	学年	氏名	2021年度進路
基幹型	1年	清水陸久	玉川病院
		深谷健太	玉川病院
	2年	開田大輝	東京医療センター 循環器内科
		敷嶋さよ	東京医科歯科大学医学部附属病院 糖尿病代謝内科
協力型 東京医科歯科大学	1年	藤本可子	東京医科歯科大学医学部附属病院
		石田凌大	東京医科歯科大学医学部附属病院
	2年	竹中彩乃	日本大学病院 麻酔科
		上道知明	東京医科歯科大学医学部附属病院 整形外科
		本間理紗子	東京医科歯科大学医学部附属病院 精神科

電子カルテ・診療記録委員会

文責／和田義明

◎目的

電子カルテでの診療録の記載内容のチェックを行うとともに、記載内容の向上を図り、医療の質の向上を目指す。クリニカルパスの作製を奨励しその承認を行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：和田義明(診療部)

診療部：高橋康訓

電子カルテ室：畑山築雄

医療技術部：原 慶、谷口亜図夢、小河原由佳

看護部：藤原美佐江

事務部：橋本史子、佐藤美和、白木千恵、長田 瞳

◎開催日

最終火曜日、午後5時 この他に随時開催

◎活動報告

1. 定期的にカルテチェックを行い記載の実態を確認し改善点を指摘した。
2. クリニカルパスの実施を奨励し、带状疱疹、新型コロナウイルス感染症抗体療法、円錐切除のパスなどの新規作成、現状パスの改訂・承認を行った。

3. ハードウェアの状況を確認し、将来電子カルテ用貯蔵容量の拡大につき検討を行った。
4. 電子カルテの記載につき検討を行い、医師への啓発を行い、記載率の向上を図った。
5. 検査説明文書の改定を行った(アルテプラゼ静注療法、造影CT検査など)。
6. 災害時の運用につき再度検討を行った。
7. ACPの普及を目指し、医療に対する要望書の検討を行った。
8. 電子カルテサーバーの今後について検討を行った。
9. DPCの紙運用から電子カルテ内での運用の検討を行った。
10. 電子カルテ記載につきSOAPでの記載を原則とすることにした。

◎今後の目標

診療録の適切な記載と電子カルテによる更なる各部門の情報共有を図り、チーム医療をさらに促進させる。記載入力簡素化を図り業務の遂行を早め残業を減らす。

防火及び災害対策委員会

文責／三田陽平

◎目的

災害時における防火管理や防災対策についての検討を行い、自然災害(地震など)や火災発生時に院内の安全を確保し医療機能を維持するため、また、2020年度より災害拠点病院となり今まで以上に適切な医療救護活動を行うために、災害対策と防災管理体制を整備する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：松原正明(診療部)

看護部：高橋由美子

医療技術部：井上博満

事務部：佐々木栄三、藤井 隆

〈ワーキンググループ〉(「訓練」・「備品管理」・「書類」)

看護部：岸田みや子、鬼塚亜紀子、田中 峻、
佐藤孝太郎

医療技術部：竹場和代、弓場一伸、松村彩子、
佐藤佑介、河原真沙実、喜古 勇

事務部：水戸宏樹、勝間田 晋、三田陽平

◎開催日

第3水曜日、午後4時

◎活動報告

- ・災害関連書類の改訂、再検討：消防計画、BCP、災害対策マニュアル、アクションカード

- ・防災訓練の実施：防災訓練(5月/11月)の企画、運営
- ・区西南部保健医療圏 地域災害医療連携会議(WEB)の参加：松原(診療部)、佐々木・藤井・勝間田・水戸・三田、DMAT候補者
- ・委員会での全体活動の作業効率化を図るため「訓練」「備品管理」「書類」の3チームに分類し、委員会とは別に各ワーキンググループの活動を開始。

◎今後の目標

当院が災害拠点病院に指定されてから2022年で3年目を迎え、これまでコロナ感染拡大により災害拠点病院としての訓練がままならない状況が続いていたが、今後は行政や近隣病院・医師会等と連携した大規模災害訓練の開催を目指して災害対策訓練の内容を拡充していく。まず5月には、過去に実施した災害対策本部の立ち上げ・部署からの状況報告の受付という訓練から発展し、その被害状況に対応した本部活動を行うまでの訓練を実施することを予定としている。

また、災害対策訓練を通じて、災害対策マニュアルおよびアクションカード等を委員会での検討を踏まえたいえ、適宜改訂・更新していく。同時に事業継続計画(BCP)についても、策定から5年を経て実態との乖離も散見されることから、改訂を検討する。

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

なお、火災発生時を想定とする消防訓練については、災害対策訓練とは別途計画し、コロナ感染状況下ではあるものの院内での訓練可能場所に考慮しながら、法定年

2回の実施のうち1回は通報・避難・消火の総合訓練を実施する予定としている。

臨床倫理委員会

文責／奥田直樹

◎目的

当院で行われる医療行為について、ジュネーブ宣言やリスボン宣言の趣旨に沿い倫理的観点から、必要な事項を整備し、また職員から求められる新たな問題に対して審査、助言を行う。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：奥田直樹(診療部)

看護部：澁谷喜代美、中西君代

医療安全管理室：大池由貴子

(ジェネラルリスクマネージャー)

医療技術部：井上博満、北岡 晃

診療支援部：畑山築雄、小野崎佳彦

外部有識者：西内 岳(弁護士)

高橋幸子(聖ドミニコ学園中等高等学校校長)

◎開催日

第4木曜日、午後4時00分

◎活動報告

1. 玉川病院倫理指針・方針の改

2016年10月発刊された日本医師会の第3版医師の職業倫理指針を基盤とした玉川病院倫理指針・方針が2021年6月に完成した。電子カルテのエントランスから職員が閲覧できるようにした。

2. 2021年度中に開催予定とした医療倫理セミナーは新型コロナウイルス感染症のため、企画段階で中止した。

3. 医療現場の倫理的課題を集約し検討・共有する場として「臨床倫理カンファレンス」を設置した。

4. 臨床倫理・適応外使用の審議

①2021年5月6日「ピトレシン注射液20の適応外使用」

[申請者]産婦人科 石原愛子、松原 舞

[結果]審議の上 承認

②2021年6月10日「成毛式ソラコ Cottonの代替品のNK綿棒大の適応外使用」

[申請者]呼吸器外科 渡邊健一

[結果]審議の上 不承認(本製品が自主回収製品であり、自主回収製品は原則使用しないこと。代替品の使用について検討を求めた)

③2021年8月23日「進行がん皮膚浸潤部位における院内製剤Mohsペーストの臨床的使用」

[申請者]乳腺外科 大石陽子

[結果]審議の上 承認

④2022年2月24日「高齢・認知症患者の手術同意書の組織的対応(方針)について」

[申請者]西3階病棟 新居久子

[結果]玉川病院臨床倫理指針に「適切な意思決定支援に関する指針」を追記する。

追記する内容については看護師、ソーシャルワーカーを中心に検討するよう求めた。

⑤2022年2月24日「成人ステイル病に対するタクロリムス・エタネルセプト皮下注50mg・ケブザラ皮下注200mgの適応外使用」

[申請者]膠原病・リウマチ科 平野史生

[結果]審議の上 承認

◎今後の目標

1. 臨床倫理のセミナーの定期的開催

2. 玉川病院倫理指針の院内浸透

3. 臨床倫理カンファレンスの院内浸透

4. 外部有識者の定期的な招聘

5. 終末期患者での正しいプロセスを踏んだ方針決定を各電子カルテに反映させる

虐待対策委員会

文責／相川 丞

◎目的

児童虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者虐待など(疑いを含め)に対して迅速に対応し、組織的な対処を行うこと。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：相川 丞(診療部)

診療部：原科純一、佐藤敦子、三浦孝夫

看護部：武本千恵美、三島典子、藤原美佐江

医療安全管理室：大池由貴子

(ジェネラルリスクマネージャー)

MSW：小池小百合、田村 唯

事務部：藤井 隆、加藤みなみ

◎開催日

定例：第3火曜日(奇数月)、午後5時

臨時：緊急の問題事例が発生したときに委員会召集

◎活動報告

本年度も昨年度に続き虐待対策対応マニュアルを改定し、フローチャートをわかりやすくして、適切な対応ができるようにした。

虐待が疑われる場合は、できるだけ創部の写真撮影を行い、電子カルテに保存することを決めた。

医局会で医師への虐待対策委員会の活動報告と対応時の注意点を確認した。

看護部の退院支援教育の中で委員会の活動を紹介した。

虐待を受けている患者がDVに気づき、相談を行えるように院内のトイレや待合室にDV相談カードや相談窓口のチラシを設置した。

虐待事例：

外来事例10件

加害者：夫3件、パートナー3件、息子1件、孫1件、父1件、母親のパートナー1件

警察介入2件、児童相談所通報3件、行政連絡6件、高次病院紹介1件

入院事例5件(うち3件は継続事例)

加害者：子供3件、姉妹1件、入所施設職員1件

相談窓口の紹介を行い、MSWの面談予約を勧めた。

警察への通報を勧めたが、同意されないケースも多かった。入所している施設職員が加害者の場合、施設との関係を考慮して虐待と認めない家族もいた。

◎今後の目標

様々な虐待に対する職員の知識、理解を深める活動を行い、被虐待患者の早期発見に努める。

虐待対応フローチャートを周知して、早期対応、連絡体制を確立する。院外関係機関(児童相談所、家庭支援センター、あんしんすこやかセンター、警察など)との連携体制を確立する。事例検証と症例蓄積を重ねて、迅速で適切な対応により重大事件の発生を予防する。

次年度からは、医師、看護師以外の職員にも虐待問題に関する理解と周知を徹底し、職員全体で早期発見、迅速対応ができる体制を作る。疑い症例を発見した職員には躊躇せず報告してもらい、委員会が判断と対策を検討する。

デジタルサイネージを利用し病院来院者に虐待に対する理解と対応に関して啓発活動を行っていく。

国際対応委員会

文責／大石陽子

◎目的

円滑かつ安全に外国人患者を受け入れるための環境整備および職員に対する言語・異文化に関する研修を企画する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：大石陽子(診療部)

看護部：山東真由子(外国人患者受入れコーディネーター)、原賀由美子(外国人患者受入れコーディネーター)、松岡愛也、古荘 瑩

医療技術部：小林俊介、横山美穂、田角泰子

事務部：下山奈巳、

安斎由美(外国人患者受入れコーディネーター)

◎開催日

第2水曜日、午後4時

◎活動報告

1.外国人患者受け入れ状況データ収集(外来受診者数・入院数・対応言語数)

2021年度外来受診者数1,402名、入院患者数44名、対応言語は日本語、英語、中国語、韓国語、インドネシア語、スペイン語、タガログ語、フランス語、ポルトガル語、ネパール語、ベトナム語であった。他言語対応を必要とする症例は494名であった。

2.医事課

発熱外来選任スタッフの設置。

3.リンクナースによる看護環境整備

リンクナース会の定期開催、リンクナース通信(月一回)発行、外国人対応におけるワンポイントレッスンの定期開催。英語版患者満足度調査アンケート内容の改善。実際に行われた通訳に対する患者の理解度などの通訳評価および症例検討会を行った。

4.薬剤科における外国人対応データ収集・環境整備

2021年度他言語による薬剤説明対応件数は110件であった。電子カルテ内に薬剤関連の英語患者説明書の拡充。

5.2021年度JMIP更新。

6.2021年度東京オリンピックにおける来日スタッフへの診療およびコロナ対応。

◎今後の目標

・英語版ホームページの充実。

・2023年度JMIP更新に向けた準備。

・中国語・韓国語版患者満足度調査アンケート作成。

薬事委員会

文責／北岡 晃

◎目的

医薬品の適正な採用、管理、運用を図ることを目的とする。採用(院外のみ採用も含む)、採用削除、適正使用と管理、医療安全、後発品の採用、製造販売後調査受け入れ、その他必要と認める事項について審議する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：佐藤敦子

医療技術部：北岡 晃、西村理恵子

看護部：志村千秋

事務部：藤井 隆、佐藤佳子

◎開催日

第4月曜日、午後4時30分

◎活動報告

- ・新規採用申請(29品目)、後発医薬品およびバイオ後続品(13品目)、院外のみ採用薬(14品目)、削除薬(45品目)について審議を行った。
- ・仮採用申請薬(201品目)の購入、自主回収・供給停止、有害事象発生、製造販売後調査の進捗状況について確認を行った。
- ・後発医薬品使用割合は、85.3%(2021年3月)から85.2%

(2022年3月)と横ばいであり、後発医薬品使用体制加算Ⅱの算定を継続した。

- ・薬事委員会規程、申請書様式の表現を修正するなど軽微な修正を行った。
- ・正式採用後1年間の使用実績調査を行い、使用症例が20名以下の薬剤について採用継続の可否の検討を行った。
- ・小林化工(株)行政処分による出荷停止や関西物流センター医薬品倉庫火災による品薄、新型コロナウイルス蔓延やウクライナ戦争による輸入制限により供給が遅滞したため、代替品への対応を行った。
- ・最新版の「今日の治療薬2022」の切り替えを半数の部署で行った。

◎今後の目標

- ・病院機能評価で品目数の削減を指摘されているため採用薬の整理を行う。
- ・後発医薬品への切り替えを進め、後発医薬品使用体制加算Ⅰ(90%以上)の算定を目指す。
- ・同一薬効が複数ある薬剤についてフォーミュラリーを導入して整理を進める。

化学療法委員会

文責／小倉敬史

◎目的

がん化学療法の安全性と有効性を確保し、抗がん剤の適正使用を推進する。

◎メンバー(2022.3現在)

委員長：森田瑞生(診療部)

診療部：佐藤 康、大石陽子、大司俊郎、田中将樹、仁平光彦

看護部：藤井沙織、大竹順子、湯澤奈弥、千葉博子、中西君代

医療技術部：小倉敬史、松田沙貴子、篠原勇介、猪狩亜希子

事務部：下山奈己

◎開催日

第4火曜日、午後5時

◎活動報告

- ・注射用抗がん剤安全使用マニュアルを作成し電子カルテ上に掲示した。
- ・後発品への採用切り替えについて審議し、変更を行った。
アリムタ(イーライリリー)：ペメトレキセド(日本化薬)へ変更

アロキシ(大鵬薬品)：パロノセトロン(岡山大鵬薬品)へ変更

- ・新規レジメンの審査、承認、登録を行った。
インライタ+バベンチオ療法／バベンチオ療法(腎細胞癌)
S-1+ドセタキセル療法(胃癌)
カルボプラチン+タキソール+キイトルーダ療法(胃癌)
XELOX+オブジーボ療法(胃癌)
ロンサーフ+サイラムザ療法(胃癌)
- ・ハルトマン液の採用中止に伴い、該当レジメンの当院採用薬のソルアセットFへの切り替えについて審議し変更を行った。
- ・生理食塩液200mLの製造中止に伴い、生理食塩液250mLでの抗がん剤の溶解後の安定性について審議し切り替えを行った。
- ・抗がん剤の供給不足により一部レジメンの使用が制限されたため、代替レジメンの提案を行った。
FECからEC療法(乳癌)、FOLFOX療法からXELOX/SOX療法(胃癌、大腸癌)、FOLFIRI療法からIRIS療法への変更を提案

- ・irAE対策ガイドラインを作成し医局会で周知した。
- ・B型肝炎スクリーニング検査の実施体制について周知した。

◎今後の目標

- ・院内がん勉強会の開催方法の検討。
- ・後発医薬品およびバイオ後続品の切り替え検討。
- ・医薬品供給体制に応じた使用レジメンの提案。

その他委員会

名称	委員長	目的	開催日
医療ガス安全管理委員会	朝木千恵 (診療部)	医療用ガス(診療用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等)設備の安全管理を図り、患者の安全確保を目的とする。	年1~2回
機器整備委員会	松原正明 (診療部)	医療機器、用具および什器の新規購入、更新、廃棄について審議する。	第2月曜日
手術室運営委員会	朝木千恵 (診療部)	手術室の安全管理、清潔管理、機器整備、各科の意見交換等を行い、手術室の合理的運営を図る。	第3月曜日
輸血療法委員会(自己血輸血委員会)・臨床検査適正化委員会	松原正明 (診療部)	輸血療法の安全確保と適正化を図る。	第4月曜日
救急・外来運営委員会	石井一之 (診療部)	玉川病院における外来業務に関する問題点を協議し、解決していくことを目的とする。救急医療についての記録、整備についても検討する。	第4月曜日
栄養給食委員会	岩本正照 (診療部)	治療の一環として提供する病院給食の効率的な運営や改善を図る。	第3火曜日
衛生管理委員会	佐々木栄三 (事務部)	職員の健康障害の防止、健康保持促進、労働災害の防止に係る対策を検討する。	第3火曜日
NST委員会	大司俊郎 (診療部)	栄養評価・栄養状態の改善を通して、治療効果の向上・感染症の減少・在院日数の短縮・医療費の削減・QOLの改善など医療レベルの向上を図ることを目的とする。	第4火曜日
広報委員会	二神 創 (診療部)	広報誌を発行することで、当院の情報を開業医や患者に提供し、当院の利用促進を図る。ホームページを日常的に管理し、情報の新規掲載や更新を行う。	第2水曜日
救命救急講習委員会	齋藤和幸 (診療部)	成人の突然の心停止に対する「最初の10分間」の対応とチーム蘇生方法について、日本救急医学会認定ICLSコースを通し、病院職員全体に学んでもらうことを目的とする。	第2水曜日
褥瘡対策委員会	岩渕千雅子 (診療部)	入院患者の褥瘡の状況を調査し、適切な対策を立て、治療効果を評価する。	第4水曜日
診療報酬委員会	安野正道 (診療部)	診療報酬請求に対する減点対策を行うとともに、保険診療の適正化と円滑な運営を図る。	第4水曜日
認知症ケア委員会	日熊麻耶 (診療部)	認知症に関わる知識の浸透、認知症患者に対するケアの改善を図る。	第1木曜日
緩和ケア委員会	佐藤 康 (診療部)	緩和ケアに関わることの実施、啓蒙活動を行う。	第4金曜日
RST委員会	竹内孝夫 (診療部)	人工呼吸器を装着している患者(NPPV、HFTも含む)に対し、質の高いケアを提供するとともに、適切な呼吸管理が継続できるようにすることを目的とする。	第4金曜日

事務局

医学研究所

玉川病院

玉川クリニック

佐倉厚生園病院

佐倉ホワイエ

日産厚生会診療所

IV 福利厚生

保育室(ライクアカデミー株式会社)・総務課

文責/藤井 隆

スタッフ(2022.3現在)

室長1名、副室長1名、その他スタッフ8名

活動状況

玉川病院保育室は職員(常勤・非常勤)の勤務時(日勤・夜勤)の利用が可能で、0歳児から5歳児のお子さんが対象となる。低学年の就学児も理由により可能な場合もある。

昨年度に引き続き、コロナの影響により、行事関係は縮小(保護者の参加人数を制限)して行った。

保育室では、月1回、消防避難訓練や事故対応訓練なども実施している。また感染対策委員は感染対応指導に添った感染症対策や対応を行っており、感染症発生時の報告や日々の業務報告を担っている。

さらに2ヶ月毎(コロナ前は毎月)に総務課、看護部と保育室スタッフにて意見交換を行い、各種改善に取り組み、感染対策としては、蓋付のおもちゃ入れやベビーバギー等の備品を更新した。

2021年度保育室利用状況・累計

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	児童	合計
2021年 4月	25	53	35	6	2	15	0	136
2021年 5月	14	72	35	7	5	8	0	141
2021年 6月	44	55	30	3	8	4	0	144
2021年 7月	37	48	17	6	1	6	0	115
2021年 8月	38	42	8	10	1	12	0	111
2021年 9月	40	49	16	4	3	7	0	119
2021年10月	47	53	21	3	2	5	0	131
2021年11月	45	54	20	2	2	6	0	129
2021年12月	40	49	19	2	3	7	0	120
2022年 1月	56	46	15	6	0	6	0	129
2022年 2月	40	52	14	0	5	5	0	116
2022年 3月	66	57	17	9	5	20	0	174
合計	492	630	247	58	37	101	0	1,565

◎保育時間

日勤保育時間 8:00~18:00

夜勤保育時間 16:00~翌10:00

◎保育定員

33名

◎保育料

1回につき1,000円(最大金額 20,000円/月)

希望者には、朝・昼・夕の給食やおやつを提供を行っている。(朝食200円、昼・夕250円、おやつ100円)

◎1日のスケジュール

- 9:00 朝の会
- 9:30 おやつ
- 10:00 晴天時はお散歩、雨天時はお絵かきや製作
- 11:30 昼食
- 12:00 お昼寝
- 15:00 午後のおやつ
- 16:00 自由あそび

◎年間行事予定

- 5月 春の遠足・子供の日
- 6月 保護者懇談会
- 7月 七夕
- 9月 お月見
- 10月 秋の遠足
- 11月 保護者懇談会
- 12月 クリスマス会
- 1月 お正月遊び
- 2月 豆まき
- 3月 ひな祭り

今後の目標

コロナ禍が継続しており、今後も感染がどこで発生するかわからないが、お子さんの将来の成長を鑑みて、出来得る限りの感染防止対策をとり、室内に閉じ込めるのではなく、なるべく、多くの自然に触れ、四季を感じられるような保育を目指したい。